

続・ベンチ設置に向けて！



清水学
(市民街仲)

前回の一般質問でも取り上げたが、市道にベンチを設置する際、設置可能な場所はあるか。例えば、区画整理中の梶野通り、東大通りと緑中央通りを結ぶ中央通り(線路沿い)等、ベンチ設置は可能ではないか。また、武蔵小金井駅高架下の小金井街道沿い(建設中の温浴施設付近)も商店会等のベンチ設置は可能ではないか。東小金井駅北口の梶野通りでは歩道が広いので、カフェスペースのようなものができるのではないかと考える。歩道幅員が広い場所は市内でも限られていて、ベンチ設置できるところには設置することを念頭に置き検討していただき、引き続き「ベンチが多い街、小金井市」を目指していただきたい。最後に、商店会のベンチ設置についての相談には乗っていたので、商店会もこれからベンチを増やしていこうという流れがあるようなので、引き続き協力体制で臨んでいきたい。

部長 梶野通りはベンチ設置を検討中。中央通りは自動車教習所の南東角は広く土地が確保できることからベンチ設置を計画に反映中。武蔵小金井駅高架下の温浴施設前は歩道の切下げが復旧された際にベンチ設置の検討は可能。

HPVワクチンの推進／市全体の保育の質向上を



天野かな
(みらい)

①統計データを扱う上で注意すべきバイアスを含め情報伝達における課題を市も十分に認識した上でワクチンの効果及び安全性を正確に発信していくべき。(ア)情報伝達における市の課題認識は、(イ)副反応についての理解促進に加えて継続接種に向けた取組及び情報発信の強化をすべきでは。

部長 (ア)様々な情報の存在は認識している。必要な情報提供に努めて、被接種者が主体的に接種を判断できるように情報発信することが重要であると考えている。(イ)必要な情報を提供し、接種するかどうかが判断できる

障がい福祉サービス利用者へ適切な支援を



沖浦あつし
(みらい)

(ア)相談支援専門員(以下、「支援員」という。)の支援を受けず「セルフプラン」として利用者自ら障がい福祉サービス利用計画書を作成するケースは何例か。(イ)「新規の相談支援をお断りされた」事例がある。相談支援に関する各事業所の状況把握や事例共有、また、自立支援協議会との関係は、(ウ)市内で従事する支援員の人数は十分に足りているか。支援員を増やす方向性は、

部長 (ア)本年9月現在、障がい福祉サービス支給決定を受けている82人の内訳として、介護併用ケアプラン23人、計画相談69人、セ

ルプラン20人。(イ)市では、市内全相談支援事業所を会員とする相談支援事業所連絡会を設置し、状況把握をしている。また、同連絡会で共有した課題を地域全体で解決に取り組むため、自立支援協議会の専門部会である相談支援部会において、今後の連携の在り方について検討している。(ウ)市内で現在31人、支援員数は年々増えているが、十分足りている状況ではない。より充実させていきたい。

良質な睡眠啓発と対策を中学校特別教室に空調を



中井れい子
(公明党)

①日本人の5人に1人が睡眠に問題を抱えているとされる中、よい睡眠がいかに私たちの健康や社会にとって重要であるか、再確認と周知が必要と考える。(ア)睡眠障害についての認識は、(イ)睡眠日誌、記録シートの導入を検討しないか。

部長 (ア)不眠症など、注意力の低下、作業能率の低下など多岐にわたり影響を及ぼす。よりよい睡眠をとることは、心身の健康の保持増進において重要であると考えている。(イ)自分自身の状況の把握、睡眠の見直し、改善につながる可能性があるため、ホームページ

での周知啓発を検討したい。

②エアコンが設置されていない学習環境では、学習能力の低下を招くだけでなく、子供の心身に著しい影響を及ぼすことが懸念される。(ア)エアコン整備の状況と課題及び解決策は、(イ)即応型空調機配備導入の検討をしないか。

自己肯定感の向上／自転車走行の危険減少へ



遠藤百合子
(自由民主党)

①日本の子どもは他国の子どもに比べて自己肯定感が低く、自信喪失に陥りやすい傾向がある。子どもの自己肯定感と自尊感情の向上が大事な観点である。(ア)保育園・幼稚園での対応は、(イ)小中学校での対応は、(ウ)教育長のお考えは。

部長 (ア)保育者との愛着、信頼関係を基本とし日々の関わりや声がけの在り方を大事にしている。(イ)全ての教育活動の中で自己肯定感を高める指導を行っており、第3次明日の小金井教育プランに基づき取組を進める。

教育長 (ウ)「義務の努力は燃え尽きる、楽しむ努力は燃え続ける」と講演会でまとめたように、子どもが主体となるためには、活動を子どもに委ねることが大切で、このことが未来を開く原動力になる。

②自転車走行に関する道路交通法が2024年11月から改正され、交通事故の抑止を図る目的で、自転車の交通違反の取り締まりが強化された。道路交通法改正・2026年4月より導入の青切符に関する広報を。

きょうだいが同じ保育園に入れるよう指数変更を



水谷たかこ
(こがおも)

公立か民営かを問わず、きょうだいが別々の保育施設に通っている世帯の負担は非常に大きい。(ア)本市の実態を把握しているか。(イ)きょうだいが現に通う保育園に転園を希望する場合の調整指数が標準の指数に与える影響を比較すると、他市区では本市の15倍になっており、きょうだいが同じ施設に通えることを優先する姿勢が表れている。待機児童対策にめどが立ってきたいま、本市でも同じ施設に入りやすいように、調整指数を変更しないか。

部長 (ア)市内保育所に入所している世帯数が約3千、

きょうだいで通っている世帯が600、そのうち別々の保育施設に通っているのは約2割、約120世帯である。(イ)国の通知を参考にしながら、指数は自治体ごとに様々な考え方をもって設定されている。本市では待機児童対策を優先していたことから、産休や育休中の指数が高くなっている。全体への影響も鑑みながら研究したい。

テレワークの推進、駅周辺の路上喫煙防止の啓発



ながとり太郎
(こがおも)

①少子化による人材の確保が難しくなっている中で、小金井市が選ばれる自治体となるには多様な働き方の推進が重要である。(ア)適切な人材を確保できているか。課題はあるか。(イ)多様な働き方の一助となるテレワークについて、実施状況、本格実施に向けた課題は何か。(ウ)それに伴う業務の棚卸し、業務指示方法の改革はできているか。

部長 (ア)一般事務職は相当数の人数は確保できているが、専門職について課題がある。(イ)テレワークの位置づけは、人材確保・離職防止・業務効率化・BCP

対策などである。現在、試行段階で16%の職員が実施している、課題として職場負担や業務効率低下がある。(ウ)業務の棚卸し、いわゆるBPRを行うことについて、業務生産性向上などの観点からも引き続き取り組む。

市立小中学校の教室を断熱改修しよう



坂井えつ子
(緑・つながる)

①市立小中学校では、学校環境衛生マニュアルに基づき2回温度等の測定をしている。(ア)マニュアルに沿った「各階1以上の教室で検査」するための検討状況は、(イ)今夏の測定状況は。

部長 (ア)授業中の測定や限られた時間での測定など課題がある。現在1台しか保有していない気流計の台数が増やせないか検討する。(イ)7月の温度測定結果で、望ましいという基準から外れたのは2校。一校は、測定時にエアコンが不調だったが、すぐに修繕し今は快適な状況になっている。本町小2階で29度だったが、

測定者に体感的な不快さはなかったとのこと。

②これまでも教室の断熱改修の提案をしてきた。(ア)第一小学校の校舎改修工事における対応は、(イ)長寿命化など大規模改修時などい

